

# 進路だより

No.7 令和3年 9月24日  
倉敷市立倉敷支援学校  
高等部 進路指導担当

## ☆東京2020パラリンピックから感じたこと

### ～自己選択・自己決定～☆

9月5日に閉幕した「東京2020パラリンピック」(以下パラリンピック)では、ハンディキャップがあるアスリートの活躍やその参加競技を知るとともに、プレーの熱さや激しさに、思わず手に汗を握り、試合に見入った方もたくさんおられるのではないのでしょうか。

さて、その中で、ボッチャ(BC2クラス)に出場し、日本勢として初の金メダルを獲得した杉村英孝(すぎむらひでたか)選手について、ご存じでしょうか? 杉村選手は先天性の脳性麻痺で、身体が不自由な選手です。決勝戦を前にしたテレビのインタビューを受け、次のように答えられました。

「私は、生まれつき身体が不自由で、多くの部分で、誰かの支援を受けなければ生活していくことができません。しかし、ボッチャをしている時だけは、自分が主体になれるのです。どこを狙って、どこに球を投げるのかという“自己選択・自己決定”できるのが、この競技の魅力です」



新潟大学教育学部の長澤正樹先生によれば、「選んだ結果、決める」つまり“自己選択”のプロセスは、『自己管理・自己解決・自己主張・自己理解』が4つの柱としてあると指摘しています。つまり、自分で支援ツールを使ったり工夫したりして管理し(自己管理)、他者のアドバイスを受け、自分で問題解決をする(自己解決)。そして自分の気持ちや意思を相手に伝える(自己主張)とともに、自分の特性や能力を知り、自分を客観視する(自己理解)ことを経て、自己肯定感が生まれるということでした。

学校生活での最大の自己決定は、進路選択です。自分が納得する進路選択を行うために、先述した自己理解(何が得意なのか? 自分自身に向いている仕事や働き方は?)を促し、前向きに指導していくことが必要だと考えています。

ただし、進路に関しては、最終的に採用の可否を決めるのは進路先です。「自己理解を進め、自己選択をする」ことと同時に、「選んでもらえる人」になるということも必要になってきます。



「自分で選んで、自分で決める」こと。我々が当たり前に行っているこの行為を、本校でもとても大切にしています。小学部から学校教育の様々な場面で機会を設けていっています。これらの力の積み上げが、高等部3年生の進路決定につながるものだと信じています。パラリンピック観戦を通じて、ふと感じたことでした。

(高等部 進路指導主事 三宅 康勝)